

市民と市長の

# 対話集会

- 市民生活/安全安心

2024.05 芦屋市



①

そもそもなぜ、**対話集会**なのか

②

私たちの考えている**施策**

③

みなさまとの**対話**

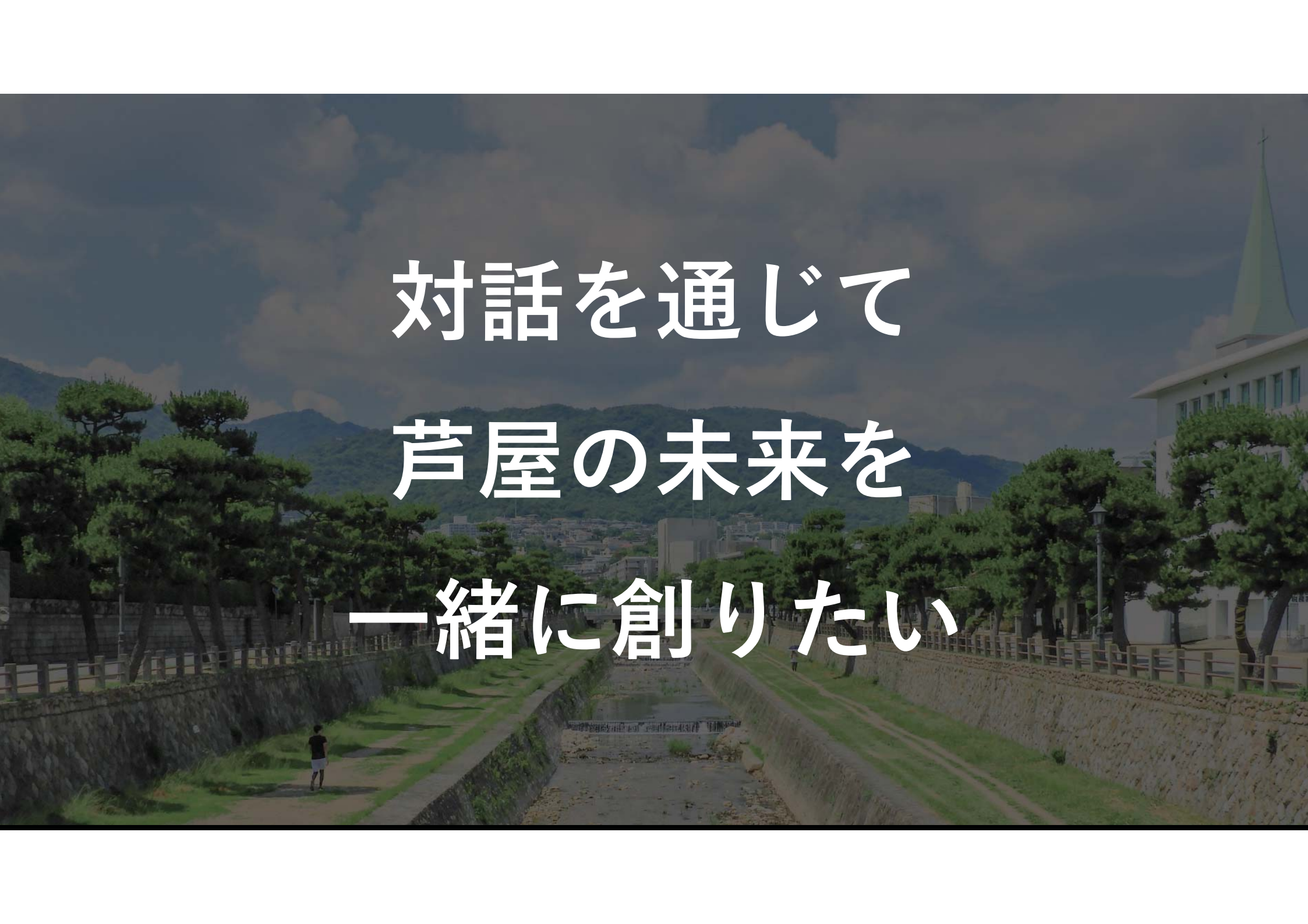
# Why “Dialogue”

そもそもなぜ、対話集会なのか

1



# 「対話集会」

A scenic view of a stone-lined canal in Asahi, Japan. The canal is flanked by stone walls and green grass. In the background, there are pine trees, a building with a green spire, and mountains under a cloudy sky. The text is overlaid in white on a dark background.

対話を通じて  
芦屋の未来を  
一緒に創りたい

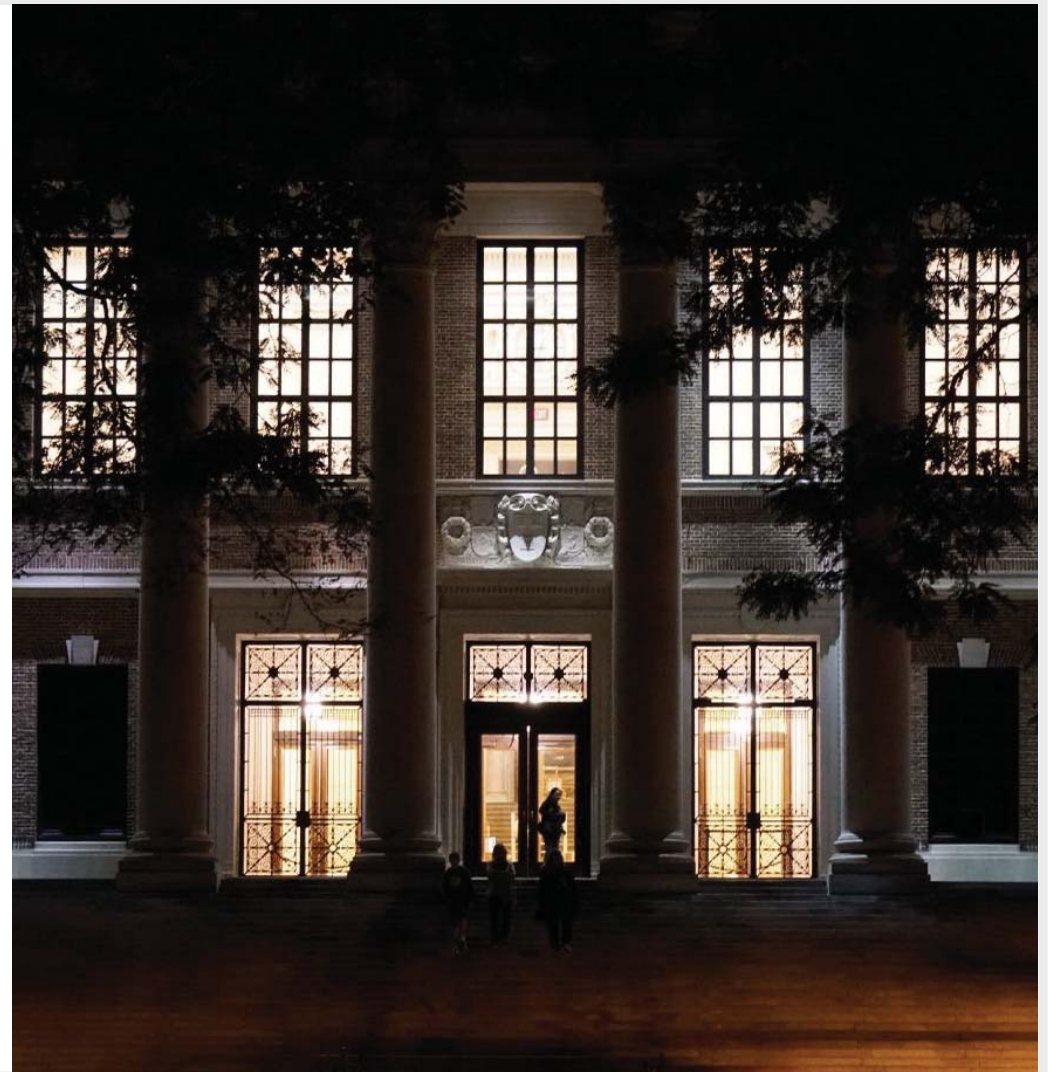


つくりたいのは、  
要望の場ではなく  
対話の場

# Policy

私たちの考えている施策の一部ご紹介

# 2





1

燃やすごみ処理の広域連携



# わたしたちのまち芦屋は2050年までに 温室効果ガス実質排出ゼロを 目指します。

## 「芦屋市ゼロカーボンシティ」を表明します

わたしたちのまち芦屋は六甲山の山並みと瀬戸内の海を間近に臨み、自然に恵まれた良好な環境をもつ都市として発展してきました。

また、緑の基本計画や芦屋市環境計画に基づき、まちの緑化や省エネ政策などによる温室効果ガスの削減にも、積極的に取り組んでまいりました。

一方で、近年、地球温暖化が原因と考えられる猛暑や豪雨などによる大規模災害

が全国各地で発生しており、気候変動問題は、私たち一人ひとりにとって避けることのできない喫緊の課題です。

未来の世代へ美しい芦屋を継承し、持続可能なまちづくりにおいて、市民・事業者の皆さまとともに脱炭素社会の実現に向けて取り組むことが重要であり、次のとおり「芦屋市ゼロカーボンシティ」を表明いたします。

わたしたちは

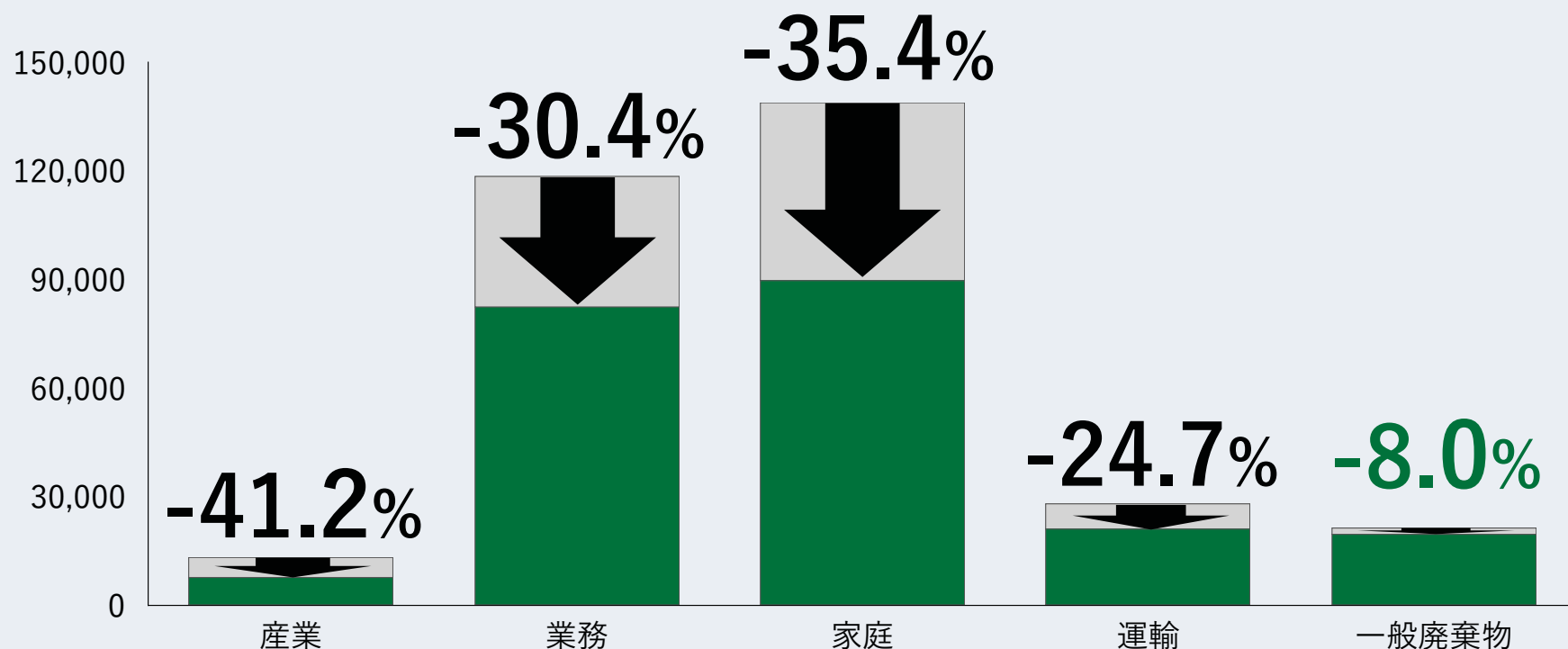
1. 省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの活用などにより2050年までに温室効果ガス実質ゼロにむけて取り組みます。
2. クールチョイスに取り組みます。
3. 花と緑いっぱいのまちづくりをこれからも続けます。

令和3年(2021年)6月1日 芦屋市

<https://www.city.ashiya.lg.jp/kankyuu/2050zerocarbon.html>

# 一般廃棄物によるCO2排出は、ほぼ減らず

芦屋市における二酸化炭素排出量の内訳[t-CO2] (2013年度⇒2020年度)





# そもそもごみの量を減らす

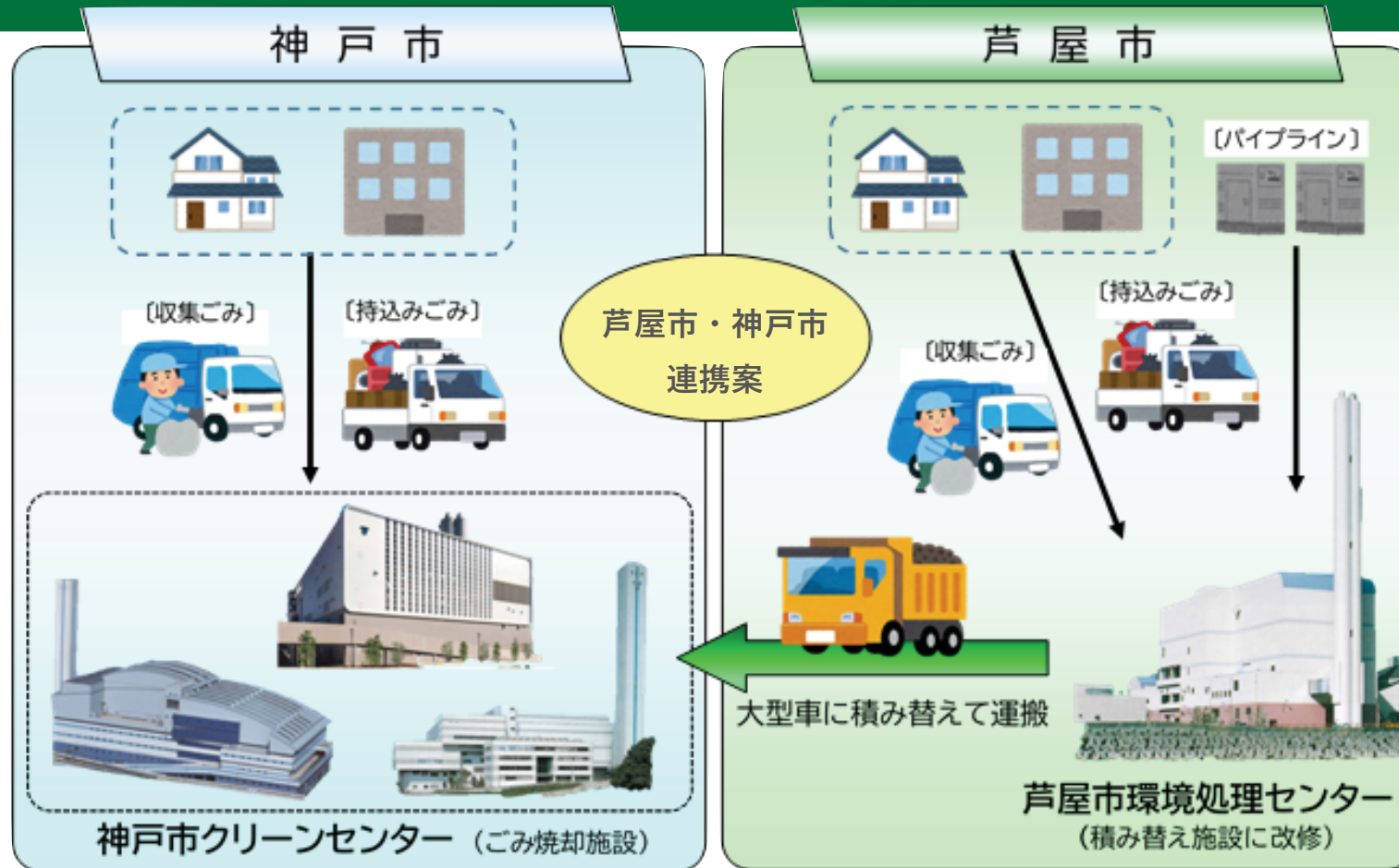
指定ごみ袋の導入後、  
1人1日あたりの  
家庭系ごみ排出量は  
導入後半年間  
(R5.10月～R6.3月)で  
昨年度同期間比 **-7.6%**



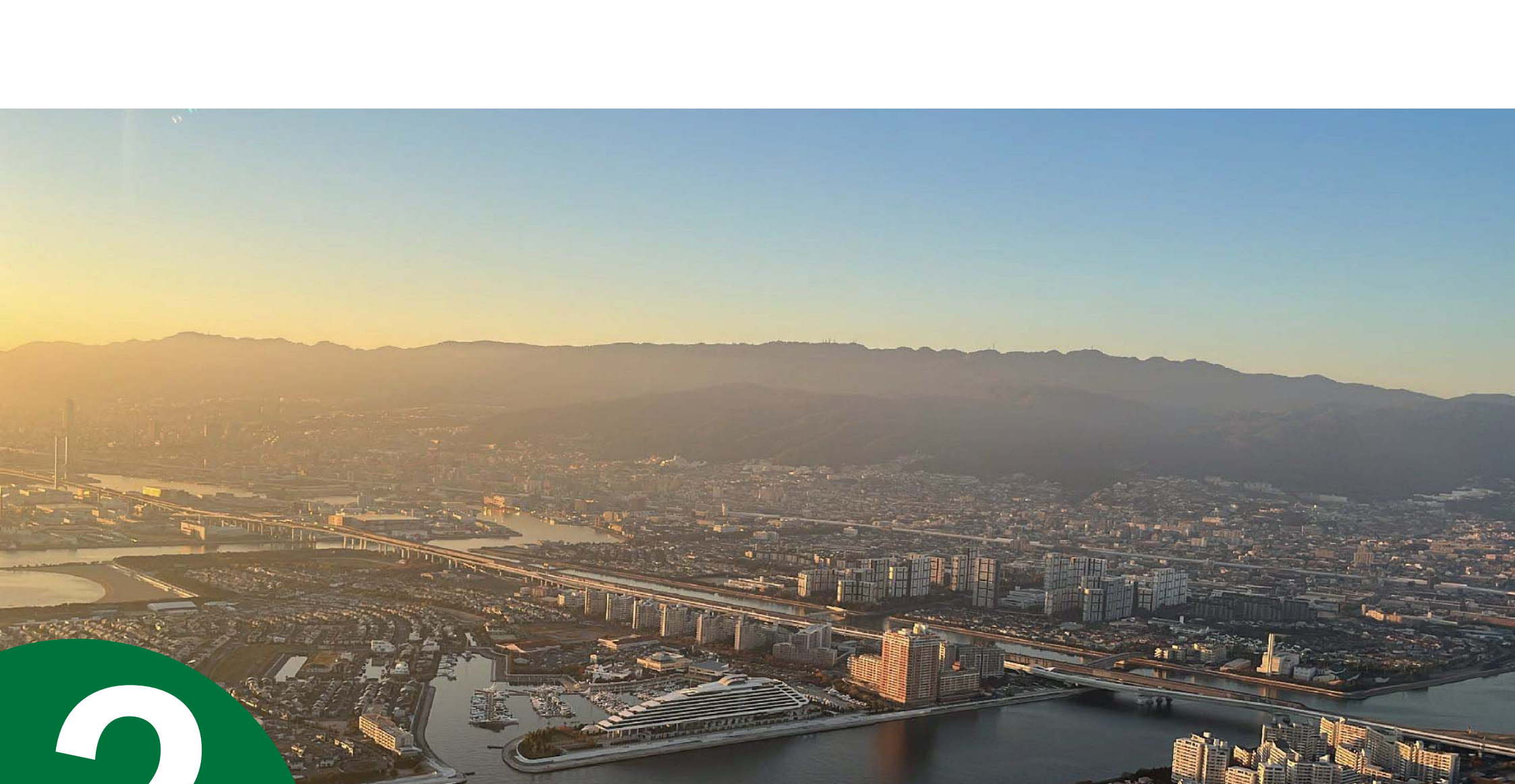
# ごみ処理の効率を上げる

既存施設を効率的に活用し、  
高効率なエネルギー回収を  
実現するため、  
神戸市との連携を協議中

# ゴミの出し方は今まで通りです







2

在宅避難のすすめ

# 避難所の混雑が気になる方

学校体育館への  
エアコン導入など  
可能な限り  
配慮はしますが、  
やはり避難所生活は  
ストレスがかかります



自宅の安全性が  
確保されていれば、  
住み慣れた自宅での  
避難生活も選択肢のひとつ

# あなたの家は在宅避難できる？

- ☑ 自宅の安全性を確認しよう
- ☑ まずは1か所片付けよう
- ☑ 水・食料を備蓄しよう
- ☑ ライフライン停止へ備えよう





# 在宅避難のススメ

大規模災害が発生したときには、避難所に被災者が殺到し、混乱の発生が予想されます。また、避難所生活ではプライバシーなどの確保が難しい場合があります。避難所生活のストレスを考えると、自宅の安全性が確保されていれば、住み慣れた自宅で避難生活を続けることも選択肢のひとつです。いざというとき、在宅避難を可能にするために、事前に準備しておきましょう。

在宅避難ができるか事前に確認



## 自宅が安全か確認する

●災害の危険がある地域に自宅があるか  
防災情報マップを使って調べましょう。

✓ **自宅に災害の危険がない**

●在宅避難を選択するには、自宅の安全性を確保することが前提です。

✓ **自宅は耐震化されている(地震の場合)**



まずは、自宅がある所に色がついているかを確認しましょう。

## まずは1か所片付けよう

部屋の中の物を減らす、散らかったら片付けるといった普段からの整理整頓が家の中の安全性を高めます。けがの予防はもちろん、被災後の片付けの大変さも軽減してくれます。また、家具類の転倒防止、ガラスの飛散防止などの安全対策をしましょう。

✓ **被災後、過ごす部屋を決めて片付けている**

✓ **家具・家電の転倒防止がされている(地震の場合)**

## 水・食料の備蓄

最低でも3日分、できれば1週間分×家族の人数を備蓄しておきましょう。

✓ **水・食料の備蓄がある**

## ライフライン停止への備え

### 断水が発生



断水や停電によりトイレが使用できなくなったときのために、**1日5回×1週間×家族の人数**を目安に、簡易トイレ(携帯トイレ)を用意しておきましょう。

### 停電が発生



懐中電灯や乾電池を用意しておきましょう。また、テレビからの情報収集ができなくなります。停電時でも情報を得られるように、携帯ラジオやモバイルバッテリーなどを備蓄しておきましょう。

### ガスも電気も止まった



カセットコンロやガスボンベを備蓄しておきましょう。調理だけでなく、お湯を沸かすのにも利用できる。例えば、湯たんぽなどを用いて、真冬は暖をとることができます。

✓ **ライフライン停止への備えがある**

**全てチェックがついた方は、在宅避難を検討してみましょう!**

## 災害時のチェックポイント

在宅避難の準備をしても、被災状況によっては、自宅にとどまることが難しい場合があります。在宅避難をするかどうか次のようなポイントを判断の基準にしましょう。

### ポイント1 危険を見極めましょう

- 自宅の家屋に被害はないか、倒壊のおそれはないか。
- 隣家の倒壊などで自宅に影響はないか。
- 火災・津波などの二次被害の心配はないか。

不安に感じたり、危険と判断したら避難所など安全な場所へ避難しましょう。

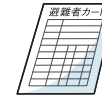
### ポイント2 生活ができるか確認しましょう

- 部屋、備蓄が問題なく使用できるか。
- 他人のサポートがなくても、暮らせそうか。

自宅での生活ができなければ避難所など安全な場所へ避難しましょう。

## 避難所を活用しよう

ポイント1 避難者カードを避難所へ提出することで必要な支援を受けられる場合があります。



ポイント2 在宅避難では、支援物資や情報が行き届かない場合があるので、積極的に避難所とつながりを持つことが重要です。



ポイント3 避難所にはいろいろな人が集まっています。困ったことがあれば、避難所運営者や行政職員等に相談しましょう。

災害時は助け合いが大切です。在宅避難を選択している場合でも、自分や家族の安全を確保できたら、ご近所や地域で助けが必要な場面では積極的に協力をしましょう。

## 被災時に活躍する道具

### ①あると便利な調理道具

ピーラーとキッチンバサミ

雑菌が繁殖しやすいまな板を使わずに調理できます。

鍋や深めのフライパン

カセットコンロでお湯を沸かすのにもポリ袋料理にも使えます。



### ②節水のポイント

水で洗えないときに次のような節水の工夫があります。

- ・食器にラップをかぶせる
- ・ウェットティッシュでスプーンを拭く
- ・使い捨て手袋をして調理する
- ・フライパンにアルミホイルを敷く

お風呂やシャワーの代わりに

体を清潔に保つためにもドライシャワーやクレンジングシート、赤ちゃん用のおしり拭きシートなどと便利です。

### ③簡易トイレの使い方

- ① 便器に便袋をセットします。
- ② 吸水凝固シートが別分けの場合はセットします。
- ③ 使用后、脱臭剤をふりかけます。
- ④ 口をしっかり結び、可燃ごみとして処理します。



※製造メーカーによって中身や使用方法が異なります。



# Dialogue

みなさまとの対話

# 3



つくりたいのは、  
要望の場ではなく  
対話の場

# お願いしたいこと

- 話は短めに！（話しすぎに注意しましょう）
- 違って当たり前！（否定より提案を）
- みんなで学び合う！（知らなくて当たり前）
- 話をつなげる！（対話を楽しみましょう）